

廃材でぬくもりおもちゃ

電動糸ノコギリで、かまぼこ板を車の形に切る通所者(手前)



口和の通所施設が製作

19.5.30
140

ミニカーや木馬 「素朴さ」が好評

廃材や使用済みのかまぼこ板などを活用して、庄原市口和町の知的障害者通所施設「ふれあい共同作業所くちわ」の通所者たちが、おもちゃを製作している。「素朴な味わい」「環境にやさしい」など好評で、通所者の働きがいにもつながっている。(梨本晶夫)

通所者は十九、六十歳の十三人。指導員四人のアドバイスを受けながら月曜日から金曜日まで一日約四時間ほど作業している。

材料は、県内の食品加工业者や工務店が無料で提供。かまぼこ板六枚をはり付けて車の形に切った高さ六センチ、長さ十一センチ、厚さ七センチの「ミニカー」(千五百円)など約五十種類作っている。

デザインは指導員のオリシナル。一部を除き、電動糸ノコギリや電動ドリルなどを通所者が巧みに操って製作する。紙ヤスリで根気よく磨き、ミニカーは二日ほどで仕上げ。

指導員が廃材から型を作り、通所者が紙ヤスリで仕上げた高さ八十センチの「木馬」(一万五千円)は、孫へのプレゼントに人気で、月平均三台売れるヒット商品となった。広島市中区の紙屋町地下街「ふれ愛プラザ」などで販売している。

「通所者が作る喜び、売れる喜びを感じながら、生き生きと作業している」と、為田豊施設長(62)。家に帰ると誇らしげに作業の様子を家族に語る、という。「どれも心を込めて作った作品。幼いころから『もったいない』を考えると話している。同施設0824-872556。